

2021/09/12

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：デーブ・テラー
中心聖句:詩編 119 篇 105 節

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」

あなたのみことばは...

はじめに

ここ最近、日曜日に様々な方が聖書から御言葉を分かち合ってくださいています。ベーハー師、黒田牧師、前牧師のアリステア師、そして現教会員であり、牧師招聘委員でもあるブラッド・ハウディシエルさん等です。皆さんにとっても祝福になっていることと思います。

今日は、聖書の御言葉の基本と言いますか、必須部分をみていきたいと思ひます。詩編 119 篇 105 節を通して、何が神の御言葉の欠くことのできない部分なのか、なぜそれが私たちの人生にとって（そして世にとって）大事なのか、またどのようにこの教えを人生に適用していくのかということより深く考えて行きます。

詩編は、150 にのぼる古代ヘブル語の歌や祈りの集合体です。今日は、その中でも、そして聖書の中でも最も長い詩編 119 篇に焦点を当てます。ご心配なさらずに、詩編 119 篇を今からすべて読むわけではありません。けれども、個別には是非読んでみてください。真実に豊かな箇所です。実際、ここは一番長い章ですが、今日はその大変長い章の中から、とても短い節、105 節に注目しようと思ひます。

詩編 119 篇 105 節「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」
メッセージをお分かちする前にお祈りしましょう。

私たちそれぞれが、私たち全員が、人生という旅路にあります。今日のメッセージの背景と、なぜ私が詩編 119 篇 105 節からお話するよう導かれたのかを説明するため、少し時間をとって、ご存知の方もいるかと思ひますが私の自己紹介と私の旅路についてお話ししたいと思います。

OIC とは、長い付き合いになります。最初に妻のマサコと初めて大阪に来て、OIC を訪れたのは 1993 年のことでした。私たちは結婚したばかりで、ハイヤット・インターナショナルのホテルを大阪に立ち上げるプレオープンチームに参加していました。

後にマサコと私は、勉学を続けて教授になるために、まだ小さい 2 人の息子たちを連れてアメリカへ帰国しました。卒業も間近の頃、日本の家族を助け、2 人の息子を育てながら教育現場での経験を積むためにまた家族で関西に戻りました。

OIC で献児した 2 人の息子、ジョーとケントは、今や青年です。ジョーはアメリカで働いていて、ケントは東京で仕事を始めるので、私たちも今週の後半に引っ越しを手伝う予定です。

息子たちがアメリカの大学に行く準備をしていた時期、神は私にアメリカのコーネル大学のホテル学校で働く機会をお与えになりました。コーネルでは夏季に教えていました（今となっては 20 年教えたことになるのですが）。そしてそのホテル学校は、私とマサコが出会った場所でもあります。その職を引き受けて、アメリカの大学に息子たちがいる間の約 5 年間働きました。

けれどもその時期に日本を離れることは難しく、大きな信仰の一步が必要でした。競争的な環境になることは分かっていたし、妻と 20 年以上も離れるということは容易なはずはありません。この先どうなるのかわからず、出エジプト記 33:15 でモーセが神に祈ったように、私は神に、神のご臨在が一緒においでになり、私を守ってくださいよう祈りました。

日々神のご臨在の内にいるために、御言葉を毎日少しずつ読んでいます。アメリカ滞在中時は、神のご臨在と守りが私の上にあるのを感じていました。今でも御言葉を毎日少しずつ読んでいます。神に感謝します。

神は、私をアメリカへ連れて行き、守ってくださいました。そして、感謝なことに新型コロナウイルスが流行する直前に私を日本へと返してくださいました。マサコとまた一緒に居ることができ、日本にいる友人や OIC の家族とまた共に過ごせることは素晴らしいことです。今日は御言葉からお分かちする時間を頂きありがとうございます。では、メッセージにうつりましょう。

私たちの人生の旅路

私たち全員が、クリスチャンかどうかの区別なく、皆人生の旅路にあります。私たちは生き、そして死にます。(他にも肩書が沢山ありますが)イエズス会のフランス人司祭であり哲学者でもあるピエール・テイヤール・ド・シャルダンはこのように言いました。

「**私たちは霊的な体験をする人間なのではない。人間的体験をする霊的存在なのだ。**」

多くの点で、私たちは人生の旅路にある霊的な存在だと私も思います。御言葉を知り、それに時間を割くことで、今の人生の旅路の質に大きな違いを生みます。旅の長さには関係ありませんし、将来の旅路に対してもそうです。

OIC で私の説教を聞いたことがある方は、私がいつも 3 つの質問に答えていくやり方をしているのをご存知ですね。今日も「なにを」「なぜ」「どのように」というその質問で構成しています。皆さんが手元で確認できるよう、この「なにを」「なぜ」「どのように」の 3 つの質問に基づいた概要の紙が週報に挟まっています。

簡単に説明すると

何を-今日お話しすることは何でしょう？詩編 119 篇 105 節は、私たちの人生の旅路について何を教えているでしょう？

なぜ-なぜそれが大切なのでしょうか？

どのように-どうしたらよいでしょう？どのようにすればこの聖句から学んだことを人生に活かすことができるのでしょうか？

Q1. 詩編 119 篇 105 節は私たちの人生の旅路について何を教えているでしょう。

119:105 には「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」とあります。

「あなたのみことば（神の御言葉）」と言うことに加えて、著者は「ともしび」と「ひかり」という 2 つの言葉を用いて注意を引きます。光とは何でしょう？ともしびとは何を意味するのでしょうか？もう少し詳しく見てみましょう。

光

光は、多様な形を取りますが、目で見ることができる以上のものです。光は、電波、マイクロ波、赤外線、紫外線、エックス線等の一部でもあります。このように異なる、何らかの形で、光は私たちのより良い生活を助けています。ラジオで音楽やその日のニュースを聞いたり、電子レンジで調理して栄養を得たり、温かいコーヒーを飲んだりします。健康診断でレントゲン検査を受けることもあります。このように様々な形で、光は私たちの生活を高めてくれているのです。**世界を明るくするために**、そして私たちの人生をより良くするために、私たちは光に頼るのです。

神の御言葉は光のように、私たちの人生をより良くし、私たちの世界を照らしてくれます。反対に、光がなければ、私たちは暗闇の中で迷子になってしまいます。それはよくありません。

ともしび

2つ目の言葉は「ともしび」です。ともしびはシンプルに、光を供給する道具や装置です。詩編の著者は、「あなたの（神のきよい）みことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」と述べています。私たちがすべてを見たり知ったりすることができない一方で（そもそもすべてを見て知りたいとは思わないかもしれませんが）、ともしびは前にある物を見るに十分な光を得られるようにしてくれます。ともしびは、正しい道に留まったままで先へ進む助けをしてくれます。有意義な良い旅路へと導く道です。

クリスチャンは、人生の旅路を神の栄光と誉れあるものにしたいと思います。私たちは心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛するよう召されています。

マタイ 22:37-38 「22:37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 22:38 これがたいせつな第一の戒めです。」

神の御言葉を学び、知り、成長することは、神への愛を表すと同時に、神に栄光をおさげしたいという思いを表現する大事な方法の1つです。そうすることで、私たちは、有意義で良い旅路(現在も未来も)の準備をし、備えているのです。

Q2. なぜ、神の御言葉で、特に詩編 119 篇 105 節で述べられていることが人生の旅路にとって重要なのでしょうか？

詩編 119 篇の全体を読めば、著者がその旅路にあって疑い、不安、悲しみ等あらゆる人間の感情と戦い、決断の際には導きを必要とし、慰め、励ましも必要としていたことが見て取れます。また著者は、道中での守りも必要としていました。そして、神がどのようなお方で、どのようなことをしてくださる方かのゆえに、自分の人生の旅路を通して神を見ることができ、神が栄光を受けるよう望んでいました。

Q2 「なぜ神の御言葉が私たちの人生の旅路に重要なのか」ということを考えるにあたり、ウィルフレッド・トマソン・グレンフェルの言葉を引用しています。グレンフェルは 20 世紀前半にカナダのニューファンドランドへ渡った英国の医療伝道師でした。この彼の言葉は詩編 119 篇 105 節の要素と重要性をとらえています。

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。疑いの中で決断し、相談する中で導き、不安の中で安心させ、悲しみの中で慰め、失敗の中で励まし、防御する中で守り、攻めの中で何よりも力強い」 ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

今日の最重要ポイントとして持ち帰って欲しいポイントは

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきもの」ということです。1つ覚えるとすれば、「神の御言葉は常に肌身離さず持っているべきもの」ということを覚えてください。みことばはあなたのともしびであり、光です。

ということで、詩編 119 篇 105 節を起点として、他の聖句でも補いながら、グレンフェルからの引用をもう少し深く見てみましょう。なぜ、常に御言葉を肌身離さず持っているべきなのかについてです。グレンフェルからのこの引用は、人生の旅路において神の御言葉が光と輝きを増してくれる 7 つの具体的方法を示しています。

#1 - 疑いの中で→御言葉は、うまく決断できるようにさせる

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。疑いの中で決断し、」-ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

私たちは皆、疑ったり疑問を持ったりするものです。それが人間性というものでしょう。実際、疑いは様々な形で私たちの人生の旅路でも大きな部分を占めます。人間関係において「この人は私のことを好きとは思えない」仕事において「この仕事を得られるとは・昇進できるとは思えない」霊的に「神が存在しているとは思えない。もしも存在するなら、神は本当に私のことを気にかけてくれるのだろうか？」などです。皆が疑うものです。

けれども、グレンフェルが言うように、人生の旅路で、そして私たちが疑う時、神の御言葉が助けとなります。私たちがどうすべきなのか、明確に知らせてくれるのです。

詩編 77 篇:11-12 の著者は、「疑いの時」という分岐点に差し掛かっている自分を見つめています。彼はどうするのでしょうか？そこで著者は神（主）がどのようなお方で、以前どのようなことをしてくださったのかを思い起こします。まず彼はこう言います。

詩編 77:11 「11 私は、主のみわざを思い起こそう。まことに、昔からのあなたの奇しいわざを思い起こそう。」

そして次に、疑いの中で著者はやるべきことはこれだと決心します。

詩編 77:12 「12 私は、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたのみわざを、静かに考えよう。」

シンプルに、彼は立ち止まり自分が何をしているのか見つめます（疑っています）。そして時間を取り神が過去に信頼できるお方で、頼みになるお方であったことを思い起こします。神は今も信頼でき、頼りになるお方です。これからも神は信頼でき、頼りになるお方です。著者は立ち止まり神のされた「すべてのこと」に心を注いでいます。

立ち止まり、熟考するのは重要です。神が既に人生のうちにしてくださった意味深く重要な出来事に心を注ぎましょう。私たちは、疑いで自分を身動きが取れないようにしてしまいがちです。そして何もしないのです。もしくは、立ち止まって熟考することなくさっさと何かに飛びつこうとするのです。どちらも良くありません。

立ち止まり、時間を取って、深呼吸し、神に心開き、神に正直に自分の疑いを伝えましょう。そして同時に、神がどのようなお方なのかを思い、人生でどのように神が働いてくださったのかを思い起こしましょう。

#2 - 相談する中で→御言葉は導く

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。...相談する中で導き、」-ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

私たちは、人生の旅路で道案内と助言を必要とします。神の光を必要とするのです。グレンフェルが「相談する中で」と言っているのは、神に助言を求める必要があるという意味です。私たちは、人生の道案内とするべく、他の何でもなく、神の導きを求めるべきです。他の人のものともな意見や声を聞いても、自分にとって最善なのは何なのか実際わからないこともよくあります。神は何が私たちの最善なのかを完全にご存知で、それを与えたいと思っておられます。旅路の中で神は、私たちを光の方へと継続的に導き、暗闇から遠ざけようとなさいます。私たちは、明確に光を求めて行くべきです。

ヨハネ第一 1:5 には「1:5 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。」とあります。

神は光なのです。また詩編の著者は御言葉もまた光であると言っています。この2つは同じものです。御言葉にとどまり、御言葉によって生きるなら、私たちは神のご臨在の中に生きています。神の導きを感じ取って、暗闇の世界で神の輝きを反映するようになります。神の光の中に生きることで、世の光となるのです。

聖書で神の言葉が初めて出てくるのは冒頭部分で、神の光について述べています。

創世記 1:3 「1:3 神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。」

神はただ、「(そこに) あれ」とだけ言われました。神の御言葉が暗い世に光をもたらしたのです。闇は行く場を失いました。神がなさったすべての御業のすばらしさは、光を見れば一目瞭然です。くり返しになりますが、神の御言葉は私たちの光であり、ともしびです。御言葉は神がどのようにして私たちを助け、今、そして将来どのように導かれるのかを明らかにします(私たちが対処できる限られた範囲で、ですが)。

#3 -不安の中で→神の御言葉は安心を与える

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。...不安の中で安心させ、」-ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

不安は実際に、人生の旅路でもかなりの部分を占めるものです。神の御言葉はシンプルで直球です。ペテロ第一 5:7 にはこうあります。「5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。」神は、不安や恐れ之神ではありません。御言葉を読めば神のご臨在と神の平安を感じるようになります。神に祈り、自分の不安でさえも神に押し付けるのが理想です。神は、あなたの重荷や不安を負ってくださると約束されました。神はそれらを負ってくださり、決して私たちを離れたり見捨てたりすることはありません。

同様にフィリピ 4:6-7 にはこうあります。

「4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

不安の中で、神の御言葉は安心を与えるのです。

#4 - 悲しみの中で→神の御言葉は慰める

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。...悲しみの中で慰め、」-ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

神の御言葉は非常に深い悲しみにある時こそ、神を称えるよう逆説的に勧めています。ちょっと待ってください。おかしくないですか? 深い悲しみで哀れに感じている時に、神を称えるですって? そうです。喜びという見返りが欲しいのであれば、神を賛美するのです。神は、賛美の内に慰めと喜びがあると約束されています。

イザヤ 49:13 にはこうあります。

「49:13 天よ。喜び歌え。地よ。楽しめ。山々よ。喜びの歌声をあげよ。【主】がご自分の民を慰め、その悩める者をあわれまれるからだ。」

先月、アリスティア牧師が詩編 46 篇について説教されました。アリスティア牧師は詩編 46:1 「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。」から力強い教訓を示されました。詩編 46 篇の中でも 10 節は私のお気に入りの聖句の 1 つです。

日本でもアメリカでも、家の書齋に詩編 46 篇 10 節を張り出しています。この節は、特に悲しみにある時、私にいつも重要なことを思い起こさせ、慰めてくれます。

46 : 10 「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。」

もう一か所、もっと有名な慰めの詩編は詩編 23 編です。詩編 23 編 4 節で著者は「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。」と宣言しています。

神、そして神の御言葉は、人生の旅路を通して常に存在する私たちの慰めです。御言葉を読み、とどまって、また御言葉に戻りましょう。自分の状況や世界のどこにいるのかは関係なく、です。

#5 - 失敗の中で→神の御言葉は励ます

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。失敗の中で励まし、」 - ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

人生の旅路で、私たちは失敗するものです。避けることはできません。失敗は人生の実態です。けれども、失敗が致命的・永久的なものとなるべきではありません。実際に、私たちは成功からよりも失敗からの方がより多くを学ぶものです。今日の中心聖句は詩編 119 篇から取られています。もう少し前の 119 篇 71 節で著者は、私たちは神と自分自身について失敗から、より多くを学ぶと言っています。

詩編 119:71 「119:71 苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」

「おきて」というのは、神の規則、立法、真理です。これについて少し考えてみてください。私たちの失敗や苦労は本当に良いことになるのでしょうか？

失敗した時の痛手は、成功した時の良い気分の大きさを超えるものでしょう。ですから、これは真実かもしれません。ですからもしもそこに神や自分自身についての価値ある学びがあるとすれば、その痛みを伴う経験つまり私たちの失敗の中で、それを学びの経験ととらえ、成長の機会ととらえるならば私たちはより多くを学ぶことができるでしょう。

聖書の最初の部分でも、神は私たちの失敗や欠点を最終的には良いことのために用いることができることを学ぶことができます。また創世記の話になりますが、ヨセフの経験を思い出します。ヨセフは兄弟とうまくやっていけませんでした。彼は若いうちに何度も困難にあいました。彼を売ってしまうことになるほどに兄弟たちを怒らせてしまいました。けれども、ヨセフの旅路における欠点や失敗を経て、彼は後に兄弟にこのように言いました。

創世記 50:20 「50:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。」

私たちは皆、誰かに傷つけられたことがあるものです。身体的か、精神的か、もしくは両方かもしれません。それは家族や愛する人たちによってだったかもしれません。けれども、人生の終わりにヨセフのように「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。」とすることができたとしたら、それは本当に素晴らしいことです。

私たちに欠点や失敗があっても、自分に悪意を持つ人がいたとしても.... 「神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくため」ということであれば、私たちの失敗は神の素晴らしい成功となるわけです。

私は仕事では教育者の立場にあります。私と生徒にとって、教育とは学びと継続的な進歩・成長に尽きます。クリスチャンとしても、それは同じです。神の御言葉は、支えられながら、学び、前進し続けるよう教えています。御言葉の知識と人生での適用がそれを可能にしてくれます。

#6 - 防御する中で→神は守られる

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。防御する中で守り、」 -ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

約7年程前に日本を經つて渡米する準備をしていた時、私は一人で行くのは分かっていましたが、独りぼっちではないと知っていました。私には神と御言葉がありました。私はモーセのように、旅路において神のご臨在が私と共に來て、私を守ってくれるように祈りました。

出エジプト記 33:15 「それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」

そして神のご臨在と守りが本当に私と共にあつたのです。アメリカ滞在中、クリスチャン関連の本も読みました。アメリカ滞在中に私が影響を受けたクリスチャン男性について書かれた2冊の本を簡単にご紹介したいと思います。

不屈の男 - アンブローケン -

日本から香港經由でアメリカに渡つたので、乗換のため6-7時間の待ち時間ができました。本屋へ行き、そこで「不屈の男 - アンブローケン -」という題の分厚い本を購入しました。これは、ルイ・ザンペリーニの実話です。ルイ・ザンペリーニは、第二次世界大戦中に活躍したアメリカのオリンピック選手で、日本の強制収容所生活も経験しました。端的に言うと、彼は大変な苦悩を経験しましたが、最終的に強制収容所から解放されました。この本は大変よく調べられて書かれた本です。アンジェリーナ・ジョリーはこの本をハリウッド映画にしました。皆さんも機会があれば読む・見る価値はあると思います。

もっと重要なことは、ルイ・ザンペリーニは、更に多くの苦難を経験した後、クリスチャンになったということです。そして彼は、人生の旅路で神が彼の守ってくださっていたことに気づいたので、そして人生を変えられた経験とすべての罪に対するキリストの完全な赦しのゆえに、日本で彼を捕らえた人たちを心から赦すことができたのです。それは、ルイ・ザンペリーニがキリストの内に見出した赦しです。キリストの内にのみ見出すことができる赦しと愛が、彼の怒りと置き換えられたのです。キリストの犠牲が私たち一人一人を守ります。今も、そしていつでも。何年も前にルイ・ザンペリーニにとってそうだったと同じように。

「不屈の男」は伝記です。私は伝記が好きです。特に、キリスト教と日本に繋がりがあるものが好きです。アメリカ滞在中に、もう一冊「翼の陰」という伝記を読みました。

この実話も、第二次世界大戦中の話です。これは、ドイツの若き神学生、グレオン・ゴールドマンの人生の旅路の物語です。ゴールドマンは、第二次世界大戦が始まると、ヒトラーのナチス親衛隊エリート兵として徴兵されたのですが、戦時中でも奇跡的に聖職者の訓練を終えて按手、秘密裡にドイツのカトリック兵、そして無実の民間犠牲者に仕えました。

戦後、彼は日本に宣教師としてやってきました。日本での滞在中、東京・板橋区の貧困層を中心に奉仕しました。実は、1954年から1961年にかけて、彼は自分の小さな会衆を助け支えるべく廃品回収をしていました。そして最終的に教育の基礎を設立するのに十分な資金を集めました。

彼は2つの教会、多数の家、病院、家族向けの行楽地、コミュニティセンターを建てました。1965年には、昭和天皇と実業家の足立正がその善行の業績を称え、ゴールドマンは日本の社会福祉事業に与えられるものとしては最高の勲章を与えられました。

なぜこのルイ・ザンペリーニとグレオン・ゴールドマンの話をしたのでしょうか？

両者とも、人生の旅路で戦争と苦しみを経験しました。彼らは辛い人生を経験しましたが、究極的には神を称える良い人生を送りました。そして実際に多くの人をキリストの信仰へと導いたので、聖職者のゴールドマンの場合は、戦後、日本で貧困層に仕えるために自分の成人としての人生のほと

んどの時間を費やしました。彼もまた、神の守りを受けることができると信じ、その守りの中に安らいだ人でした。

くり返しになりますが、この本のタイトルは「翼の陰」で、詩編 91 篇から来ています。詩編 91 篇は美しい詩編です。皆さんも是非読んでください。これだけで説教ができるほどですが、今日は最初の 4 節だけを分かちあいます。どのように神の御言葉が守ってくれるかわかることでしょう。

詩編 91:1-4 「91:1 いと高さ方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る。

91:2 私は【主】に申し上げよう。「わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神」と。

91:3 主は狩人のわなから、恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。

91:4 主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、とりでである。」

1 節で、神が守られる方であると分かります。

「いと高さ方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る」

2 節で、著者は神が自分を守る方であると宣言します。

「私は【主】に申し上げよう。「わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神」

そして 3-4 節で、神がすべての者の守りであることがより明確になります。

「91:3 主は狩人のわなから、恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。

91:4 主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、とりでである。」

私たちが身を守る時、戦における盾と武具のように、神の御言葉は守ってくれるのです。

#7 - 攻めの中で→神の御言葉は何よりも強い

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ...攻めの中で何よりも力強い」 -ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

私たちの人生の旅路で、防御するように生きて神の守りを求める必要が多くある一方で、攻めるために決断力と勇気、力を求める時もあります。

エペソ 3:20 の御言葉は、神がどのような問題よりも大きなお方であると約束しています。

エペソ 3:20 「3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、」

私たちは皆個々に、困難と不確実さに直面します。もしかしたら皆さんは、今、個人的に困難に直面しているかもしれません。もっと大きな枠で言えば、牧師を探すという変遷期にある今、OIC は牧師招聘という課題と共に前進しています。個々でもグループでも、人生の旅路は前進を必要とするものです。そして前進するためには、攻めなければなりません。グレンウェルは「神の御言葉は何よりも強い」と指摘します。

御言葉の武具で武装したクリスチャンとして、ピリピ 4:13 の「私（たち）は、私を強くしてください方によって、どんなことでもできるのです。」を思い起こします。

ピリピ 4:13 は、多くの人に良く知られた聖書箇所で、特にクリスチャンアスリートが引用しています。もちろんアスリートかどうかに関わりませんが。多くの人たちが、自分たちにとって意味深い、生涯の聖句を持っているものです。そういった人たちは、その聖句によって生き、決して忘れることはありません。詩編 46 篇 10 節について先ほど触れましたが、その聖句が私にとってはそのような聖句の一つです。私の状況が良いか悪いかに関わらず、また日本・アメリカのどこにいるかに関わらず、握りしめている聖句です。

つまり、攻めにあっても守りにあっても、神の御言葉には人生の旅路のための力があるのです。謙虚に、そして確信をもって、神は「この世のどんな権力よりも強い」という確信に安らぐ必要があ

ります。こうしてグレンウェルの言葉を全て見てみると、私たちの人生の旅路で神の御言葉がなぜそんなにも重要なのが見えてきます。

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきものだ。疑いの中で決断し、相談する中で導き、不安の中で安心させ、悲しみの中で慰め、失敗の中で励まし、防御する中で守り、攻めの中で何よりも力強い」 -ウィルフレッド・トマソン・グレンフェル

神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべきです。

神の御言葉にとどまらなければいけませんね。...でも、どのようにすれば良いのでしょうか？

Q3:詩編 119 篇 105 節を、今、人生の旅路でどのように適用することができるのでしょうか？

私たちそれぞれの人生で、神の御言葉を適用するためのシンプルで実践的な方法があるはずで、この数十年、OIC は牧師招聘を何度も経験しました。実際のところ、率直に言えば牧師も人間です。教会の牧師は代わるものです。来ては去るのです。けれども、神の御言葉は変わりません。主がアリスティア牧師とウェンディ夫人を OIC に送られる前、臨時牧師のブライアンとナンシー夫人がおられました。その時、彼らは聖書を定期的に読むためのシンプルな方法を教えてくれました。SOAP (ソープ：せっけん) と呼ばれる方法です。この意味を理解するため、そして今日の御言葉から学んだことを日常に活かすために、この SOAP についてご説明して終わりたいと思います。

SOAP が意味することは

S = Scripture (御言葉)

O = Observation (考察)

A = Application (適用)

P = Prayer (祈り)

です。では、SOAP はどのようにしていくのでしょうか。

私は、このような小さな日誌をつけて、毎日の SOAP の聖句やそこからの学びを記録しています。またスタディバイブルも使っています。スタディバイブル (ESV や NIV など) は、より深く、より深い意味で理解し、御言葉に触れるために助けになります。その御言葉の背景にあることが分かり、その聖句を理解し、考察し、適用し、祈るために助けとなる情報も多くあります。

S = Scripture(御言葉)–御言葉のどの節が私に語りかけているのでしょうか？

-毎日 1 章読みましょう。(例えば詩編 119 篇)

-そしてその章から 1 節選び、心を注ぎましょう。(例えば 119 篇 105 節)

-今日私は長い 119 篇から短い 105 節を選びました。

-私は自分の学びの記録のため SOAP 日誌をつけて、その選んだ節をこの日誌に書き込みます。

O = Observation(考察)–この章からおおまかに、節から具体的に神について何を学べるのでしょうか？

今日のお話から、一番大事で、覚えて帰って欲しいことをお話しましたが覚えておられますか？

「神の御言葉は、クリスチャンのたましいの最強の武器であり、常に肌身離さず持っているべき」です。これが御言葉からの私の考察です。

ここでも、優れたスタディバイブルや聖書辞書などがその章・節の背景や意味を理解するのに助けとなります。

A = Application (適用)– どのようにして御言葉と真理を自分の人生に適用できるのでしょうか？

まず素晴らしい適用として検討できるのは、SOAP を始めることです。小さな日誌をつけましょう。SOAP の方法を用いて、聖書を読んだ記録を残しましょう。そして、神の真理を人生に、個々の状況に適用し、神との時間、神への祈りの時間を豊かなものにしましょう。

P = Prayer(祈り)– 今、どのようにして神に祈ることができるでしょう？

人生のための重要な適用を与えられたら、どのように神に祈れば良いか自問してみましょ。祈りは、神との会話を支えるものです。神に対して「わからない」と言ってもいいのです。わからない時こそ、御言葉を用いて神に祈ってもいいのです。神はご自身の御言葉をお聞きになるのを好まれます。

最後に祈りましょう。

天の父なる神様、

あなたのみことばは私の足のともしび、私の道の光です。

あなたとあなたの御言葉は、私の人生で良い時も、辛い時も、いつもそこにいてくれます。

主よ、あなたのみことばは、光といのちへと導きます。

クリスチャンのために祈ります。彼らが、より定期的に、より継続的に、あなたの御言葉に深く関わっていくことができますように。あなたの御言葉を通して、信者はあなたに引き寄せられ、あなたが御神であることを知ります。そして、あなたの御言葉のすべての益を見出すのです。

クリスチャンではない方のために祈ります。彼らが聖書を開くことができますように。新約聖書のヨハネの福音書や、聖書の真ん中あたりにある詩編、もしくは最初の創世記から初めても良いかもしれませ。大切なのは、この方々が今日、聖書を開き、読み始めることです。

神の御言葉は、クリスチャンの最高の武器として活躍するのですから。

御言葉を通してのみ、そしてあなたの内にのみ見出すことができる愛、恵み、平安を感謝いたします。

アーメン